

2025 年度 長岡大学シラバス

授業科目名	地域経済論 (Topics of Regional Economics)					担当教員	瀧波 慶信 (タキナミ ヨシノブ)	
2020-23 年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	地域志向科目／知識定着・確認 型 A L
	2037-1-33-094	専門科目	選択	2 単位	3 年次	後期		
2024-25 年度 入学者(24K-25K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	地域志向科目／知識定着・確認 型 A L
	2437-1-33-033	専門科目	選択	2 単位	3 年次	後期		

① 授業のねらい・概要
地域経済は日常生活の基盤である。さらに地域社会のあり様を決定づける最も重要な要素の一つである。こうした地域経済の成り立ちとその発展の方向性を、京都市を参考にして理論的に理解することを目指す。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
地域社会に貢献する姿勢／専門的知識・技能を活用する能力
③ 授業の進め方・指示事項
講義形式であるが、小課題を提出し、受講者自身の発表の時間を設ける。その際の質疑応答への積極的参加が求められる。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
特になし。
⑤ テキスト（教科書）※授業で使用する。
山田浩之・赤崎盛久編著（2019）『京都から考える都市文化政策とまちづくり』ミネルヴァ書房
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。
岡田友弘著（2020）『地域づくりの経済学入門』増補改訂版 自治体研究社
⑦ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
大学生はどうあるべきかをよく考えて講義に臨むこと。素直に、自発的に学習すること。
⑧ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 地域の経済について考える視点を身に付ける。 (ii) 理論に加えて、現実の経済動向や政策等に学ぶことができる。 (iii) 諸課題解決の方策を提言できる。

⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 地域の経済動向	自分自身の目でまちを含めた地域の課題を発見することができる	資料等を参考に諸課題の発見ができる	見聞きした諸課題を理解できる	見聞きした諸課題が理解できない	諸課題について考えることをしない
(ii) 現実の経済動向、政策	自分の住むまちについて様々な方法を用いて検討できる	自分の住むまちの経済動向について理解できる	自分の住むまちの諸課題を発見しようとする態度はある	自分のまちの諸課題を感じることはできる	自分のまちの諸課題を考えることができない
(iii) 地域経済の諸課題解決に向けて	現実の諸課題について理解し、解決策を提言できる	現実の諸課題について理解できる	現実の諸課題についての理解が不十分	現実の諸課題について理解しようという態度は見受けられる	現実の諸課題について全く理解できない

⑩ 学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%			40%	10%		100%
(i) 地域の経済動向の理解	10%			10%	2%		22%
(ii) 自分のまちの経済と行政	20%			15%	4%		39%
(iii) 地域経済の振興	20%			15%	4%		39%
フィードバックの方法	受講生は要発表。他の受講生と質疑応答を行う。						

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	ガイダンス	授業の概要、進め方	120 分
2	地域経済の成り立ち①	地域経済の理解のための基礎理論	120 分
3	地域経済の成り立ち②	地域経済の理解のための基礎理論	120 分
4	文化とまちづくり①	明治維新から学ぶ	120 分
5	文化とまちづくり②	芸術文化	120 分
6	文化とまちづくり③	祭礼	120 分
7	景観と生活文化①	空き家問題・住民によるまちづくり	120 分
8	個人発表①	発表と質疑応答	120 分
9	個人発表②	発表と質疑応答	120 分
10	個人発表③	発表と質疑応答	120 分
11	地域の文化産業①	文化都市京都の産業政策	120 分
12	地域の文化産業②	伝統産業①	120 分
13	地域の文化産業③	伝統産業②	120 分
14	地域の文化産業④	産業政策	120 分
15	まとめ	伝統と革新による地域振興策	120 分

⑫ アクティブラーニングについて
毎時間、受講生は授業の最後に本時に学んだ内容をまとめる。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性